

令和7年度「明日も行きたくなる学校づくりプロジェクト」事業 成果報告書

1 指定校・指定校群 (高松市立牟礼南小学校)

2 実施の内容

(1) 校内サポートルームの設置と活用

① こころルーム

…入学して間もない「架け橋期」の児童にとって、机が並んでいるだけの教室は緊張の場となる。登校した後、その日の活動意欲を高めたり、授業の合間に緊張をほぐしたりすることができる場として、簡易の遊具やマットを設置した「こころルーム」を低学年教室の隣に整備する。

② ひだまりルーム

…不登校傾向の児童や、教室に入りにくい児童が、不安なく活動できる場として「ひだまりルーム」を整備する。校内サポートルーム担当の養護教諭が常駐し、学校生活に不安がある児童が訪れ、相談もできるようにしている。

(2) ふれあい班をベースに「活動」「集会」「清掃」を実施

①活動

…縦割り班のふれあい班で、月に1回程度のペースで、教室や運動場、体育館、校外で遊びを計画・実施。「どこで」「何を」するのか希望を出し合い、年間予定表をもとに、決定していく。活動当日前に、6年生が事前に話し合っただけで周知する必要なことをまとめたPDFデータを作成し、共有する。

②集会

…縦割り班のふれあい班で、月に1回、委員会・学年・学級からのお知らせや表彰などの集会活動を実施。始業式や終業式においても、儀式的な部分は学年ごとに並んで過ごし、その後、ふれあい班で集まって企画委員会を中心とした司会・進行のもと、対話の場を設ける。

③清掃

…縦割り班のふれあい班で、毎週水曜日に掃除を実施。年間を通して計4か所掃除に取り組むようにした。新しい清掃場所が変わる際には、初日は掃除場所で取り組む内容・分担を話し合っただけで確認する。

(3) 自尊感情を高める「こども民生委員」活動

5年生児童が、地域の高齢者と関わり、地域の中での自分の役割や有用感を自覚する活動に取り組む。

3 成果

(1) 児童生徒の自発的・主体的な活動の様子

①校内サポートルーム

「こころルーム」では、児童が自由に使うだけでなく、朝の会や帰りの会などの机を必要としない活動(サークルトーク等)でも活用した。1学期前半は、始業前にランドセルの片づけを終えた児童が集まり、一人一人が各々の遊びをしていたが、学期の後半になるとグループでの遊びや活動が多くなった。2学期に入ると、朝や休み時間に、「こころルーム」を訪れる児童はほとんど見られなくなった。小学校での学校生活にすっかり慣れ、安心して登校できるようになったことの表れだと考えている。

「ひだまりルーム」では、昨年度までは登校後や教室から出る児童が保健室で過ごしていたが、落ち着いて活動できる場ができたことで、活動に集中できるとともに、以前より短時間で心を落ち着かせることができるようになり、自身の教室での滞在時間を増やすことができた。



②ふれあい班活動

…6年生をリーダーとして、自分たちで何をしたいか話し合っ計画・準備・実行することで、自分たちの生活を自分たちで創ろうとする素地を養うことができた。

③集会

…企画委員会が中心となって司会・進行する中で「対話」を取り入れ、受け身ではなく、自治的に学び合う素地を養うことができた。また、始業式や終業式においても同様にふれあい班で対話する場を設けることで、頑張ったことや頑張りたいことなどを一人一人が語る機会を確保でき、それが受け身ではなく、自治的に学び合う素地を養った。

④清掃

…ふれあい班で清掃することで、上級生や下級生それぞれの刺激となるとともに、清掃という明確な目標を達成するために協力し合う中でふれあい班の児童同士のつながりを維持・強化することにつながった。



校外での活動



集会における班ごとの対話



ふれあい班清掃

⑤ こども民生委員活動

まず、地域の民生委員さんと活動会議を開き、高齢者の願いや困りごと、そして、自分たちにできることを確認した。地域の公民館で定期的に高齢者と触れ合う活動を実施した。学校外でも登下校時に挨拶や会話を交わす機会が増え、自分たちも地域の一員であるとともに役立っているという自信につなげることができた。また、校内でも自発的なボランティア活動に取り組む児童が増えてきている。

(2)総括

毎月行っている、生活アンケートで「学校に来るのは楽しい」と肯定的に答えた児童の回答内容において、「まあまあ楽しい」から「とても楽しい」という答えに変容している児童が多くなった。また、7月と12月の全校生の学校評価アンケートにおいても、次のような項目で変化が見られた。

質問項目	7月	12月
①話し合いをするとき、ほかの人の意見や考えを大事にしている	3.0	3.2
②自分はやればできる、ということを感じたことがある	3.0	3.1

(数値は最大を4としたもの)

①においては、異学年で関わり合う対話の場において、折り合いをつける力を付けるとともに、傾聴する力が伸びたことも起因すると考えられる。

②においては、異学年で過ごす中で下級生には下級生の、上級生には上級生の立場と役割があり、それらの経験を通して培われた自己への自信が数値の結果にも表れていると考えられる。

また、活動や集会の場において、子どもが自ら創造する姿を支援し、見守り、一緒に楽しむ中で「楽しい」という子どもの情意面を大切にしようという教師の観を磨く点でも効果があった。

牟礼南小学校は全学年単学級の小規模な学校である。それを強みととらえ、今後も子ども・教師それぞれが関わり合いを大切にしながら、一歩ずつ挑戦していき、よりよい学校の実現を目指していきたい。